

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/8/18作成 (株)新出光

## 【概況】<米原油生産量2020年3月依頼の水準回復~中国の景気回復?>

●11日、石油輸出国機構(OPEC)は10日付の月報で2023年下半期(7~12月)の石油市場は健全な状態との見通しを示し、24年の石油需要は堅調との従来予想を据え置いた。また、国際エネルギー機関(IEA)は11日公表した月報でOPEC加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」による減産により23年内に在庫が減少し、石油価格が一段と上昇する可能性がある」と指摘。エネルギー需給の引き締め観測が強まり、買いが優勢となり相場は83.19ドルへ反発しました。

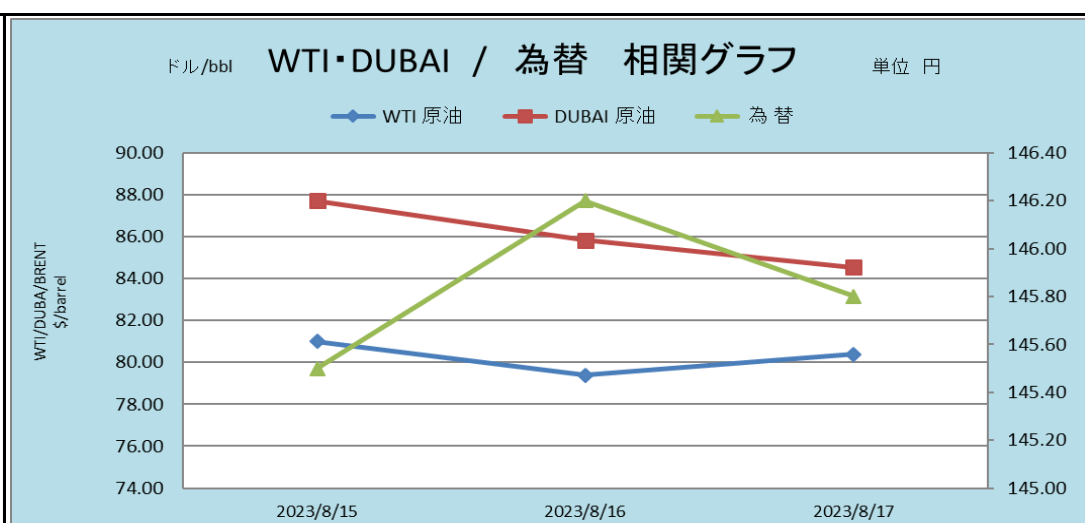
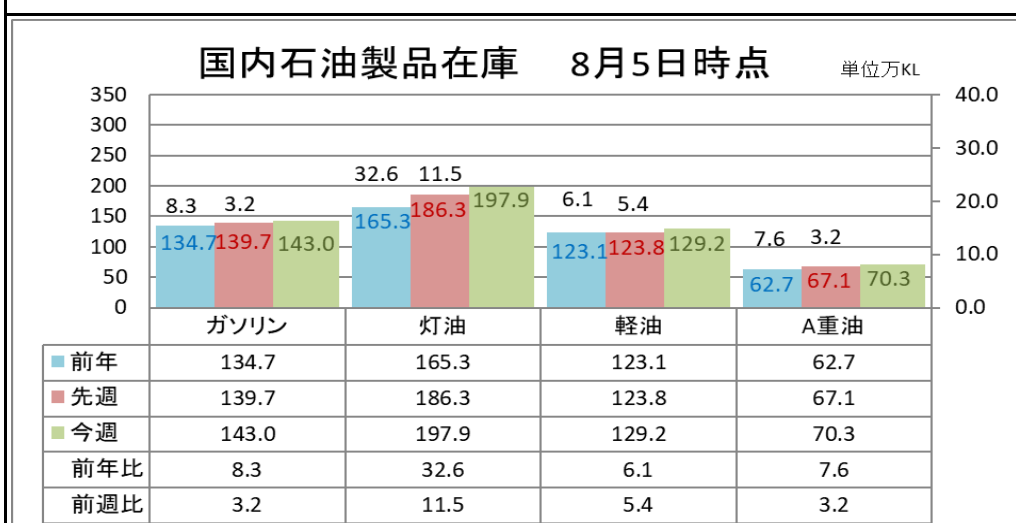
●14日、中国人民銀行(中央銀行)が11日発表した7月の中国の新規銀行融資は前月から89%減少し、2009年終盤以来の低水準となったほか、アナリスト予想も大幅に下回った。同国の景気回復の遅れを示すような内容だったことを受け、世界最大の石油輸入国である同国のエネルギー需要見通しに懸念が広がった。対ユーロでドル買いが優勢となったこともドル建てで取引される商品の割高感につながり、相場は82.51ドルへ反落しました。

●15日、中国国家統計局がこの日発表した7月の経済指標は軒並み悪化。小売売上高の伸びが3カ月連続で鈍化したほか、幅広い投資動向を示す不動産開発投資や鉱工業生産の増加率も前月を下回った。これを受け、中国人民銀行(中央銀行)は政策金利を決定する際に指標として使われる金利を2カ月ぶりに引き下げたものの、景気浮揚には不十分と受け止められ、売りが先行し相場は80.99ドルへ続落しました。

●16日、米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した週報によると、11日までの1週間の米原油生産量は新型コロナウイルス危機が拡大する2020年3月以来の水準を回復したが、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(7月25~26日開催分)の公表を前に、相場はじりじりと下落。同議事要旨で、会合参加者らが引き続きインフレに「大幅な上振れリスク」があり、一段の利上げが必要になる可能性がある」とみていることが明らかになると、利上げ長期化に伴う景気やエネルギー商品需要の冷え込みを懸念した売りが膨らみ相場は79.38ドルへ続落しました。

●17日、外国為替市場では対ユーロでドルが下落。ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油が買われた。また、前日に中心限月の清算値ベースで3週間ぶりの安値を付けたことで値頃感から買い戻しも入りやすかった。また、最近発表の一連の中国の経済指標が低調となり、同国の景気先行き不透明感が広がる中、中国で今後数カ月中に追加の景気対策が見込まれるとの観測が一部で強まっている。同国でのエネルギー需要見通しが改善するとの楽観的な見方も原油相場の追い風となり相場は80.39ドルへ反発しました。

8月18日 16:00現在 WTI原油 80.71ドル 為替 1ドル 146.71円



	次回元売変動予測	
	8/24~	元売変動予測
ガソリン	➡	+1.1~+1.6
灯油	➡	+1.1~+1.6
軽油	➡	+1.1~+1.6
A重油	➡	+1.1~+1.6
L S A	➡	+1.1~+1.6

### 【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+2.5円」、補助金は、「-12.1円・40%」、都合「+2.4円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの14日時点の小売価格平均は181.9円となっております。

《8月19日以降》次回の元売り改定は、原油コストは、「-0.5円~-1.0円」、激変緩和補助金は「-10.0円・30%」の見込みで、都合「+1.1~+1.6円」の改定の予測となっております。現在市況をリードしている業者は、各元売り月間玉を持つ業者が優勢となっております。

※原油コスト「-0.5~-1.0円」  
 ※激変緩和補助金「-10.0円」 前週比+2.1円  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】<出光、エネオス・アラムコと協働、環境型合成燃料の供給>

出光興産は、ENEOS(エネオス)とSaudi Arabian Oil Company(サウジアラビアンオイルカンパニー、アラムコ)との3社で、日本における合成燃料(e-fuel、イーフェューエル)に関する技術協力と実用化に向けた検討に共同で取り組むことに合意したと発表した。エネオスとアラムコが有する液体燃料や内燃機関に関する技術と知見を生かし、次世代型低炭素燃料である合成燃料の導入を加速させる狙いがある。

イーフェューエルは、再生可能エネルギー由来の水素と、回収したCO2を合成することで生成される液体燃料で、運輸部門の温室効果ガス排出削減に有効な燃料とされている。流通にあたり、貯蔵タンクやパイプラインなど既存のインフラの活用や、自動車・船舶・航空機のエンジンに手を加えることなく利用できる可能性があるため、低炭素化の早期実現策として社会実装が進められている。

出光興産では、国内のグループ製油所・事業所における合成燃料の生産検討を進めており、2020年代後半までに合成燃料の生産・供給体制の確立を目指している。